



ニュージャージー補習授業校だより

元気いっぱい 夢いっぱい

校長 天川 博

2019年3月16日

平成30年度3月号最終

事務所電話：201-585-0555

Eメール：njws@jwsnj.org

平成30年度 卒業式式辞

パラマスの木々のつぼみも少しずつ膨らみ、春の鼓動が日増しに感じられる中、今日ここに、在ニューヨーク総領事館佐藤勝広報センター長様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成30年度の卒業式が挙行できますことを、まずもって厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございます。

さて卒業生の皆さん。卒業おめでとう。ただいま、初等部38名、中等部29名、高等部14名の一人ひとりに、卒業証書を手渡しました。皆さんが手にした、その卒業証書の重さをどう受け止めましたか。重かったですか。軽かったですか。皆さんの手にしたその卒業証書の重さは、一枚の紙の重さでしかありません。でも、その中味はずっしりと重いはずです。皆さんがこれまで現地校に通いつつも毎週土曜日には本校に通い世界の中でも特に難しい日本語での勉強に励み、苦しみや辛さを乗り越えて手にした、「あなた自身の努力の重さ」だからです。頑張って卒業する皆さんに、改めて心から「おめでとう」の言葉を贈ります。

今日の卒業式はそれぞれを終えたお祝いの式であると同時に、次のめあてに向かって、決意を新たにしてお出立する式でもあるわけです。

皆さんはアメリカでの生活で、英語という言葉だけでなく、習慣やものの見方や考え方などの文化を身に付けてきています。さらに、本校において日本語だけでなく日本の文化も学んできました。資源の少ない我が国が、これからさらに豊かで幸せな国として維持発展していくためには他の国々と仲良くし、お互いに利益をもたらすつながりを持ち続けることが必要です。そのためにも、皆さんのようなバイリンガル、バイカルチャーな人材の活躍が期待されているのです。

「人生は夢の実現」です。特に高等部の皆さんは、「これからの自分はどうかあるべきか」という「生き方を心に決めることが大切です。」そして、諦めずに目標に向かってやり通すことです。先月のアメリカアカデミー賞でオスカー賞を初めて受賞された、世界的に有名な歌手のレディーガガさんも「オスカー賞を受賞することが夢だった。夢を諦めないこと。夢に向かって倒れないことではなく、何回倒れようが立ち上がって、勇気をもって前に進み続けることだ。」と受賞の喜びを語っていました。皆さんも、本校で学んだことを基に、自分の個性や能力をしっかり見極めて、なりたい自分に向かって諦めず、努力を続けてください。そして、国際社会に役立つ人になってください。

ご来賓の皆様にお礼申し上げます。本日は、ご多用の折にもかかわらずご臨席を賜り誠にありがとうございました。衷心より厚く御礼申し上げます。また、日頃より本校の教育に深いご理解とご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。本日は皆様のお陰をもちまして81名が卒業します。今後も一人一人の可能性が花咲くようご教示、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

保護者の皆様にお祝い申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまでの本校の教育方針に深いご理解とご支援を賜りましたことに対して、改めて感謝申し上げます。本日を迎えるまでお子様の背中をしっかりと支えてくださいましたことに改めて敬意を表します。私共はこれからのお子様は今よりさらに自己向上に努め、将来大いに活躍されますよう、今後の成長と発展を心からお祈り申し上げます。本日は、誠におめでとうございます。補習授業校という保護者の皆さまの協力なしで続けることが難しい学校で、今日まで子供たちに寄り添っていただきましたことを、感謝申し上げます。

それでは、すべての皆様方のご健康とご多幸を祈念して、私の式辞といたします。

平成三十一年三月十六日

ニュージャージー補習授業校

校長

天川 博

2年間、保護者の皆様のあたたかいご理解とご支援の下で勤務できましたことを改めて心より感謝申し上げます。4月5日には新しい校長、教頭が着任致します。引き続き、皆様のあたたかいご理解とご協力をお願い申し上げます。

校長 天川博 教頭 久永恵子

ひな祭りの集い(3/2)



すみれ組に集まった園児達に「ひな壇を正しく直してください。」と先生が呼びかけると、園児達はさっと手を挙げ、間違いを次々に指摘し、ぼんぼりや桜、菱餅を直していきました。お内裏様の笏(しゃく)を直した後、クラスのひな人形を紹介しあったり、ひな祭りの歌を歌ったりして楽しい一時を過ごしました。帰りには雛あられが一人一人に配られました。

修了式・離任式(3/9)



〈修了式〉これまで1年間共に協力し、励まし合って学校生活を送ったことの成果について、諺「ちりも積もれば山となる」を基に話をしました。毎日の努力の積み重ねが大切です。そして、最後には、友達や先生、そして自分に対してお互いに拍手を贈り、その頑張りを称えました。先生達からも「よく頑張ったね。」のお褒めの大きな拍手が子供たちに贈られました。

〈離任式〉

3月16日で私を含め8名の先生方が本校を退職します。左から幼児部錦織範子先生、3-3柳田聖実先生、4-2野口晶子先生、6-2ハンブル有加先生、中2-1荻野裕子先生中2-2アージェント久美子先生、教頭 久永恵子、校長 天川博です。

本補習授業校の更なる発展を御祈念いたします。本日までのご協力を深く感謝申し上げます。

中高等部文化祭(3/19)



【浦島太郎の一場面】



【かさ地蔵の一場面】



【桃太郎の登場】

9日の6校時にオーディトリウムで高2の舞台発表が行われました。今年は浦島太郎、桃太郎、かさ地蔵、鶴の恩返し、竹取物語など、5つの昔話の代表的な場面を上演しました。本番を迎えるまで、各自で台詞の練習を積み重ね、全体での練習は数回のみでした。しかし、生徒たちはユーモアを交えた台詞で参加者を笑いに誘い会場は盛り上がっていました。放課後は、中高等部の教室でバターゴルフやヨーヨー釣り、人形屋敷などで参加した人たちを楽しませていました。

補習授業校で学び続けるための親の心得

年度末そして、4月から新たな学年でのスタートにあたるこの時期、子どもが補習授業校での学びを継続するために親としてどのような心得が必要かを改めて考えてみたいと思います。

まず親は、「子どもは大変な思いをしているんだ。」ということのを忘れずに子供たちを支援していかなければなりません。そして、子どもが二つの言語を学ぶということは、親も二つの言語習得のための心構えをもつ必要があるということでもあります。大切な3つの支援と心構えを説明いたします。

①認める姿勢を持つ

「がんばれ！」と激励するよりも「頑張ってるね。」と、認める姿勢が大切です。頑張っているところに、さらに「がんばれ！」と言われても、子どもは困ってしまいます。頑張っていることを親が認めてくれれば子どもも安心します。

②担任と同じ方向を向く

担任と親の言うことが異なると子どもは混乱します。担任の方針に疑問点がある場合は遠慮なく担任と話し、お互いの誤解をなくすことで両者が同じ方向を向いた指導を行うことができ、効果が高まります。

③家庭では日本語を使う

「家庭は第二の補習校」です。ご家庭では日常の会話や生活場面で、意識的に日本語を使う環境を整えることが大切です。これらの心得を日頃から実践することで、充実した補習授業校生活を送っていただくことを願っています。



【学習を頑張る子供たち】